

駐輪場のある駅傍託児所

(背景・効果)

最近の社会には幼い子供のいる夫婦共働き、子を育てながら働く単身者が増え、将来減っていくという予測データは示されていない。どう預けて働き続けるかはこの先死活問題にもつながっていきかねない。幼い子供を預けるのに都合のいいのは駅傍（えきそば）の託児所である。出勤経路で預けることができ、帰宅時に早く受け取れるメリットがある。婚活男女にとっても子供を生み育てていく将来に安心感を与え少子社会解消に向けいい影響を与える。また正規就職者が増え、住民税、所得税など税収にもつながる。

(内容)

駅前ビルや駅前商店街の一角に託児所を整備する。シャッターを閉めている店がある商店街などがあるところはむしろチャンスである。託児所として比較的容易に転用が可能だからである。大きなものを一つというより中小のものを複数作る方法を採用したい。

その際、駐輪場を近くに確保することである。電動自転車が盛んになっている今、少々の坂道でも、また子に乗せた上少々の荷物があってもすいすいペダルを漕げる。

行政や町内会など団体、NPOなどが連携して推進役にまわってもらえると取り組みが進む。